

---

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

---

# 東京都感染症週報

2013年第45週  
(11月4日～11月10日)

- \* 2013年11月13日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「コロナウイルス」も記載しています。

平成25(2013)年11月14日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター  
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

---

## 全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2013年45週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		42週	43週	44週	45週	年累計	45週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	69	82	94	64	3,466	318	22,860
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
指定	鳥インフルエンザ(H7N9) *2							
三類	コレラ							3
	細菌性赤痢				1	30	2	125
	腸管出血性大腸菌感染症	3	16	8	3	361	31	3,635
	腸チフス	1	1			20	1	62
	パラチフス					18	1	44
四類	E型肝炎	1		1	1	29	1	104
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎					18		114
	エキノкокクス症							16
	黄熱							
	オウム病					2		8
	オムスク出血熱							
	回帰熱							1
	キャサヌル森林病							
	Q熱					3		5
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					3		3
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 *3						1	42
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					3		11
	つつが虫病	1		1		6	8	174
	デング熱	3	1		1	63	1	221
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								
ニパウイルス感染症								
日本紅斑熱						3	144	
日本脳炎							8	

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		42週	43週	44週	45週	年累計	45週	年累計
四 類	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア				2	9	2	44
	野兔病							
	ライム病					7		17
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		4
	レジオネラ症	3	2	2	2	73	28	978
	レプトスピラ症	1			1	5	2	25
ロッキー山紅斑熱								
2013/11/13集計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 2013年5月6日より新たに追加指定された。

\*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。2013年3月4日より新たに追加指定された。

### ( 全数把握対象疾患のコメント・一類～四類 )

#### 〈二類感染症〉

**結核 64件** 肺結核 32件、その他の結核 7件、肺結核及びその他の結核 1件、無症状病原体保有者 20件、疑似症 4件、年齢は5歳未満 1件、20代 11件、30代 10件、40代 7件、50代 6件、60代 8件、70代 9件、80代 9件、90歳以上 3件、推定感染地は国内 61件、モンゴル 1件、韓国 1件、中国 1件であった。

#### 〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 1件** 無症状病原体保有者、年齢は60代、菌種はフレキシネル、推定感染地はルワンダ、推定感染経路はその他(不明)であった。

**腸管出血性大腸菌感染症 3件** 患者 2件、患者・HUS 1件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 2件、O145 VT2 1件、年齢は5歳未満 1件、10代 1件、20代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は経口感染 1件(焼肉屋で生レバーを喫食)、その他(不明) 2件であった。HUSの事例は、脳症を認めた。

#### 〈四類感染症〉

**E型肝炎 1件** 患者、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染(豚レバー)であった。

**デング熱 1件** 患者、年齢は20代、推定感染地はインドであった。

**マラリア 2件** 患者、年齢は30代 1件、60代 1件、病型は四日熱 1件、熱帯熱 1件、推定感染地は南スーダン又はケニア 1件、コンゴ共和国 1件であった。

**レジオネラ症 2件** 肺炎型 2件、年齢は70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は水系感染(温泉) 1件、その他(不明) 1件であった。

**レプトスピラ症 1件** 患者、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は動物・蚊・昆虫(飲食店(職場)でのネズミとの接触の可能性あり)からの感染であった。

※ 第44週該当として〔四類〕レジオネラ症 1件の追加報告があった。

## 全数把握対象疾患 報告数（五類） 2013年45週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		42週	43週	44週	45週	年累計	45週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	2	4	3	6	162	14	904
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）			1	3	65	5	245
	急性脳炎 *1	1		1	1	42	1	308
	クリプトスポリジウム症		2			7		18
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1			1	15	5	186
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1		2	31	1	179
	後天性免疫不全症候群	7	11	2	7	410	15	1,310
	ジアルジア症	1			1	21	2	74
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *2					9	2	89
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *2	1				10		18
	侵襲性肺炎球菌感染症 *2	3	2	6	3	83	23	697
	髄膜炎菌性髄膜炎 *3							2
	先天性風しん症候群		2	1		11	2	24
	梅毒	7	11	8	6	367	10	1,045
	破傷風					4	1	117
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					7	2	49
	風しん	5	6	3	5	3,415	10	14,251
麻しん	1		1	2	63	2	215	
2013/11/13集計								

\*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

\*2 2013年4月1日より新たに追加指定された。

\*3 2013年4月1日より指定が解除された。

### （全数把握対象疾患のコメント・五類）

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 6件** 腸管 6件、年齢は40代 1件、50代 3件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 6件、推定感染経路は経口感染 1件(外国産パイナップル)、性的接触 2件(異性間 1件、性別不明 1件)、その他(不明) 3件であった。

**ウイルス性肝炎 3件** B型 2件、C型 1件、年齢は30代 1件、40代 2件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路はB型で性的接触(異性間) 2件、C型でその他(不明) 1件であった。

**急性脳炎 1件** 病原体はヒトヘルペスウイルス6型、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は接触感染であった。

**クロイツフェルト・ヤコブ病 1件** 古典型CJD、年齢は60代であった。

**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件** G群 2件、年齢は70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は創傷感染(左下腿蜂窩炎) 1件、その他(不明) 1件であった。

**後天性免疫不全症候群 7件** AIDS 1件、無症候キャリア 5件、その他 1件、AIDS患者の年齢は60代、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 1件、30代 1件、40代 4件、推定感染地は国内 6件、フィリピン 1件、推定感染経路は性的接触 6件(同性間 5件、異性間 1件)、不明 1件であった。

**ジアルジア症 1件** 年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間)であった。

**侵襲性肺炎球菌感染症 3件** 血清型は未実施 3件、年齢は5歳未満 1件、80代 2件、推定感染地は国内 2件、ドイツ 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、その他(不明) 1件、肺炎球菌ワクチン接種歴は1回目から3回目まで接種済み 1件、不明 2件であった。

**梅毒 6件** 早期顕症梅毒Ⅱ期 3件、晩期顕症梅毒 1件、無症候梅毒 2件、年齢は20代 1件、30代 2件、40代 1件、50代 2件、推定感染地は国内 6件、推定感染経路は性的接触 6件(同性間 3件、異性間 2件、性別不明 1件)であった。

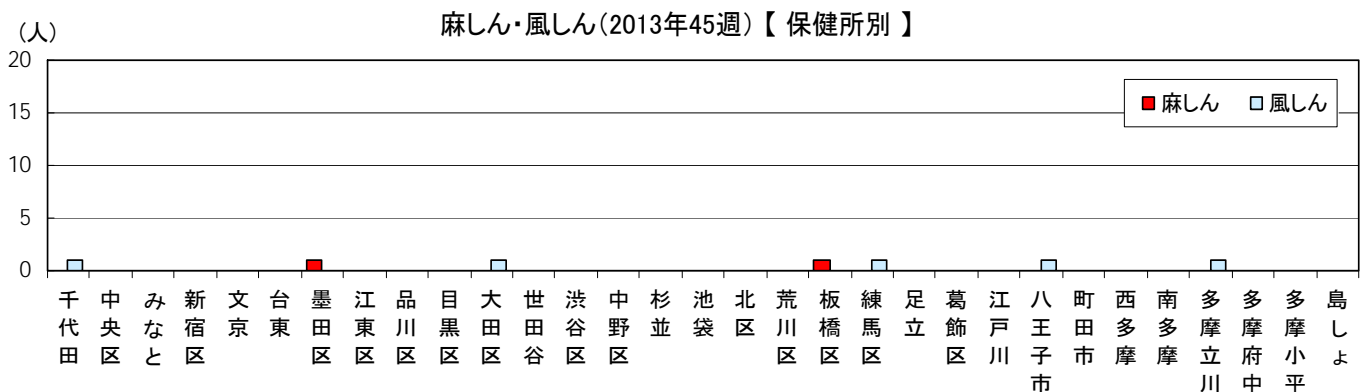
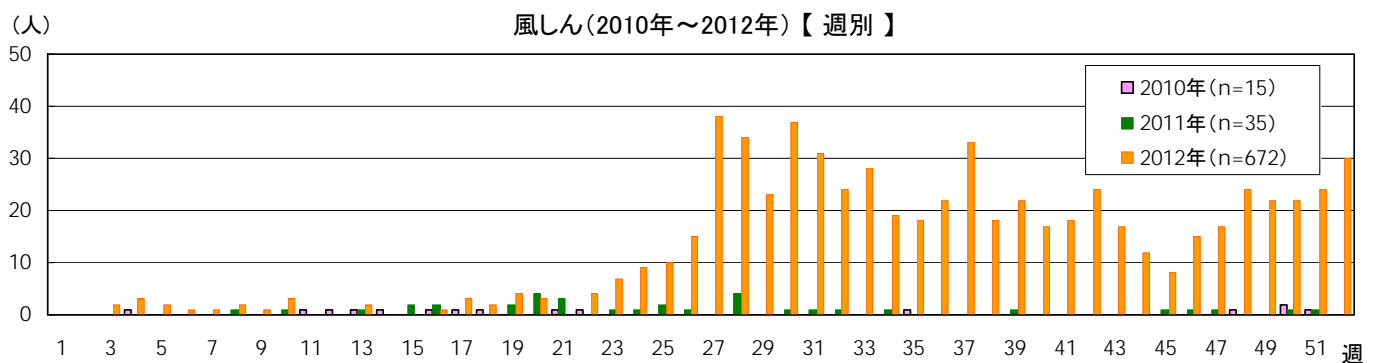
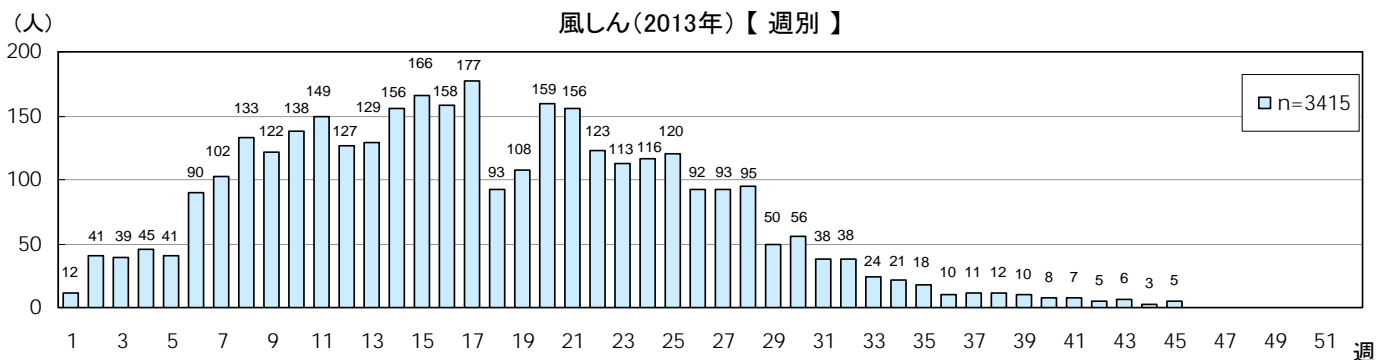
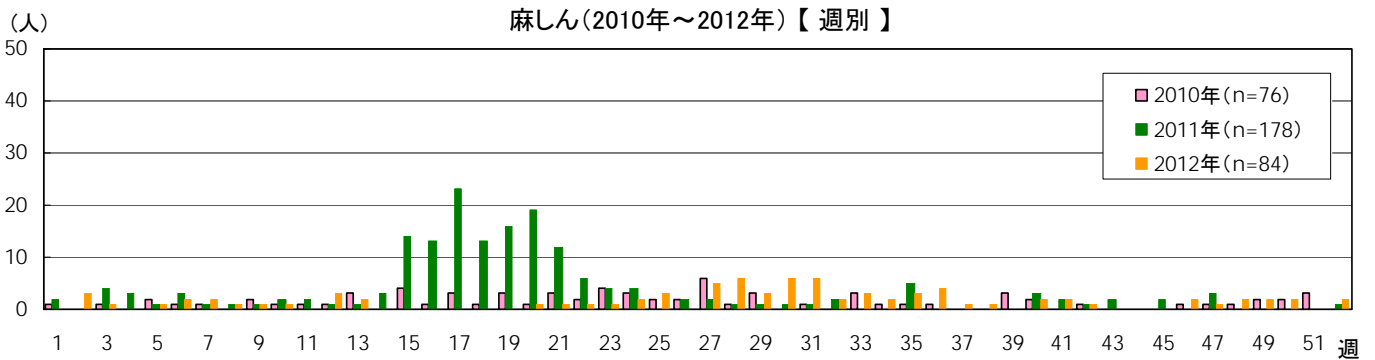
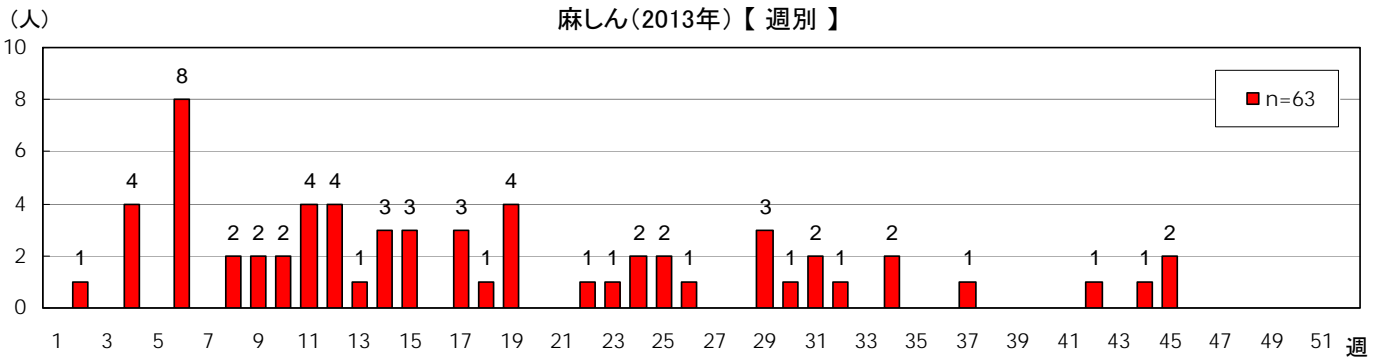
**風しん 5件** 検査診断例 4件、臨床診断例 1件、年齢は10歳未満 1件、20代 1件、30代 1件、40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、その他(不明) 3件、風しん含有ワクチン接種歴は2回接種 1件、接種なし 2件、不明 2件であった。

**麻しん 2件** 検査診断例 1件、臨床診断例 1件、年齢は30代 2件、推定感染地は国内 1件、スリランカ 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、その他(不明) 1件、麻しん含有ワクチン接種歴は 1回接種 1件、不明 1件であった。検査診断例は遺伝子検査陽性で、遺伝子型はB3型であった。この事例は、スリランカから日本に入国後に発症している。

※ 第17週で報告のあった〔五類〕風しん 1件、第25週で報告のあった〔五類〕風しん 1件は削除された。

※ 第44週該当分として〔五類〕侵襲性肺炎球菌感染症 1件、梅毒 1件の追加報告があった。

# 全数把握対象疾患(麻しん・風しん)報告数(週別・保健所別)



# 定点把握対象疾患 報告数 2013年45週

定点種別	対象疾患	2013年					報告医療機関数	定点医療機関数
		42週	43週	44週	45週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	271	274	291	236	0.91	258	264
	咽頭結膜熱	48	70	71	74	0.29		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	195	292	320	303	1.17		
	感染性胃腸炎	815	930	1,146	1,169	4.53		
	水痘	140	133	179	171	0.66		
	手足口病	296	196	212	125	0.48		
	伝染性紅斑	28	22	33	27	0.10		
	突発性発しん	146	165	187	122	0.47		
	百日咳	1	4	3	1	0.00		
	ヘルパンギーナ	67	36	32	33	0.13		
	流行性耳下腺炎	46	30	49	40	0.16		
	川崎病(注1)	1	5	3	2	0.01		
	不明発しん症(注1)	20	19	16	11	0.04		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	7	39	35	53	0.13	410	419
眼科	急性出血性結膜炎			1			37	39
	流行性角結膜炎	19	15	11	15	0.41		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	1		1	1	0.04	25	25
	無菌性髄膜炎	4	4	2	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	7	10	6	5	0.20		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)							
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)(注4)	1			1	0.04		
	インフルエンザ入院		1					
2013/11/13集計								

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

(注4) 病原体がロタウイルスであるものに限る。2013年42週より開始

### (今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・RSウイルス感染症の定点当たりの報告数は減少したが、過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・インフルエンザの定点当たりの報告数は増加した。

### (定点医療機関からのコメント)

**千代田**

- ・RSウイルス(毛細気管支炎)は2名共に入院対応。

**みなと**

- ・感染性胃腸炎19名中ノロウイルス陽性4名

**新宿区**

- ・インフルエンザB型 1名

**台東**

- ・インフルエンザA型 1名

**墨田区**

- ・インフルエンザA型 1名、B型 2名
- ・インフルエンザA型 1名

**江東区**

- ・インフルエンザA型 2名

**世田谷**

- ・インフルエンザB型 ラオスから帰国の40代 1名
- ・マイコプラズマ感染症 4名(6歳児 1名、7歳児 3名)
- ・EBウイルス感染症 1名(20代)
- ロタウイルス感染症は見られません。

**池袋**

- ・ノロウイルス胃腸炎 2名

**北区**

- ・インフルエンザA型 2名

**荒川区**

- ・マイコプラズマ肺炎 1名
- ・病原性大腸菌O1 2例 O166 1例
- カンピロバクター 3例 サルモネラO4群 1例

**板橋区**

- ・カンピロバクター 1例
- 病原性大腸菌O18 1例

**葛飾区**

- ・インフルエンザA型 1名
- ・マイコプラズマ肺炎 9歳児 1名
- ・アデノウイルス扁桃炎 2歳児 1名

**江戸川**

- ・インフルエンザA型 1名

**八王子市**

- ・インフルエンザB型 1名
- ・アデノウイルス 1歳児 1名、3歳児 4歳児 5歳児 各2名
- ・ノロウイルス 11か月児 1名 ロタウイルス 1歳児 1名
- アデノウイルス 6歳児 1名

**多摩立川**

- ・インフルエンザB型 1名

**多摩府中**

- ・インフルエンザA型 2名
- ・インフルエンザB型 1名
- ・インフルエンザB型 1名

**多摩小平**

- ・インフルエンザA型 8名
- ・インフルエンザA型 1名
- ・マイコプラズマ肺炎 12歳児 15歳児 各1名
- ・マイコプラズマ肺炎 1名
- ・病原性大腸菌 1名、アデノウイルス腸炎 1名

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2013年45週

定点種別	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
～5か月	35			13	2			1			
～1歳	62	4	1	71	5	9	1	48		5	
1歳	69	9	6	158	18	33		57		11	2
2歳	32	11	10	114	26	21	4	10		4	2
3歳	16	15	21	114	31	19	2	5		2	4
4歳	13	12	43	100	39	11	5			2	8
5歳	2	6	39	113	25	5	4			4	8
6歳	5	7	39	56	14	8	4				2
7歳		4	30	47	2	6	3	1		1	5
8歳	1	2	27	48	2	2	1			1	2
9歳		1	33	37	6	3	2			1	2
10～14歳		3	36	119		4	1		1	1	5
15～19歳			1	40	1						
20～29歳	1		17	139		4				1	
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	236	74	303	1,169	171	125	27	122	1	33	40
先週比	-55	3	-17	23	-8	-87	-6	-65	-2	1	-9

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ入院
～5か月		1									
～1歳		4	1								
1歳	1	2	1					1			
2歳		1	2		1			1			
3歳			1					1			
4歳		1	4					1			
5歳			7					1			
6歳			5		1	1					
7歳											
8歳	1		3							1	
9歳		1	1								
10～14歳			6								
15～19歳			1					1			
20～29歳		1	1		3						
30～39歳			8		2						
40～49歳			7		5						
50～59歳			1		2						
60～69歳			2								
70～79歳			1		1						
80歳以上			1								
合計	2	11	53		15	1	1	5		1	
先週比	-1	-5	18	-1	4		-1	-1		1	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2013年45週

定点種別	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田	2.33			3.00						0.67	
中央区			0.33	1.33		1.00		0.33			0.33
みなと	1.67	1.00	0.17	4.83	0.17	0.50	0.17	0.67		0.50	0.17
新宿区	2.50	0.13	0.63	2.63		0.13					
文京	0.25		0.50	2.25	0.50	0.50		0.75			
台東	1.50		0.75	5.50	0.75		0.25				0.25
墨田区	1.80	0.20	0.20	0.40	0.20	0.60					
江東区	1.11	0.44	1.89	7.89	0.44	0.33		0.56			0.22
品川区	0.75		0.50	4.88	0.13	0.38	0.13	1.00			
目黒区			0.33	2.00		1.33					
大田区	1.31	0.31	1.08	5.92	0.85	0.85	0.15	0.31		0.15	0.08
世田谷	1.00	0.19	0.94	3.31	1.31	0.81	0.69	0.63		0.19	0.13
渋谷区	0.25		0.25	3.00				0.25			
中野区	0.43		0.43	3.43	0.86	0.43					
杉並	0.20	0.10	0.50	4.50	0.30	0.50		0.40		0.10	
池袋	0.40		0.20	3.00	0.40	0.40				0.40	
北区	0.29	0.14	0.14	7.00	0.43	0.29		0.86			
荒川区	3.00	0.25	3.00	7.25	0.50	1.00	0.75	0.75			0.50
板橋区			0.10	3.10	0.40	0.50		0.60			
練馬区	0.54	0.77	1.23	2.92	0.92	0.31	0.08	0.92		0.31	0.08
足立	0.62	0.38	1.69	8.23	0.62	0.54		0.38		0.23	0.15
葛飾区	0.38	0.13	0.50	7.13	0.50	0.13	0.13	0.25			0.13
江戸川	0.20	1.30	2.50	4.70	0.70	0.60	0.20	0.60		0.10	0.30
八王子市	2.50	0.40	3.00	12.40	1.40	0.60		0.50	0.10	0.30	0.20
町田市	0.50	0.13	2.00	8.38	1.38	0.50		0.38		0.38	0.50
西多摩	0.88	0.13	0.13	1.88	0.50	0.25		0.25		0.38	0.25
南多摩	1.11	0.22	1.11	5.11	0.89	0.22	0.11	0.67			0.44
多摩立川	0.57		1.86	2.86	0.43	0.21	0.07	0.43			
多摩府中	0.55	0.10	2.20	2.35	1.30	0.65	0.05	0.55			0.40
多摩小平	1.80	0.87	1.40	2.27	0.47	0.67	0.07	0.60		0.20	0.20
島しょ											
東京都	0.91	0.29	1.17	4.53	0.66	0.48	0.10	0.47	0.00	0.13	0.16



定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田								1.00			
中央区					2.00						
みなと											
新宿区	0.13		0.18								
文京	0.25										
台東			0.14								
墨田区			0.50				1.00				
江東区			0.21								
品川区											
目黒区											
大田区		0.15			0.50						
世田谷		0.19	0.04			0.50					
渋谷区					3.00			1.00		1.00	
中野区											
杉並			0.07								
池袋					2.00						
北区			0.18								
荒川区		0.25	0.14		1.00						
板橋区			0.19								
練馬区					0.50						
足立			0.15		1.00						
葛飾区			0.15					2.00			
江戸川			0.12								
八王子市		0.10	0.06		1.50						
町田市		0.13									
西多摩											
南多摩		0.11									
多摩立川			0.57								
多摩府中			0.13								
多摩小平		0.13	0.48								
島しょ											
東京都	0.01	0.04	0.13		0.41	0.04	0.04	0.20		0.04	

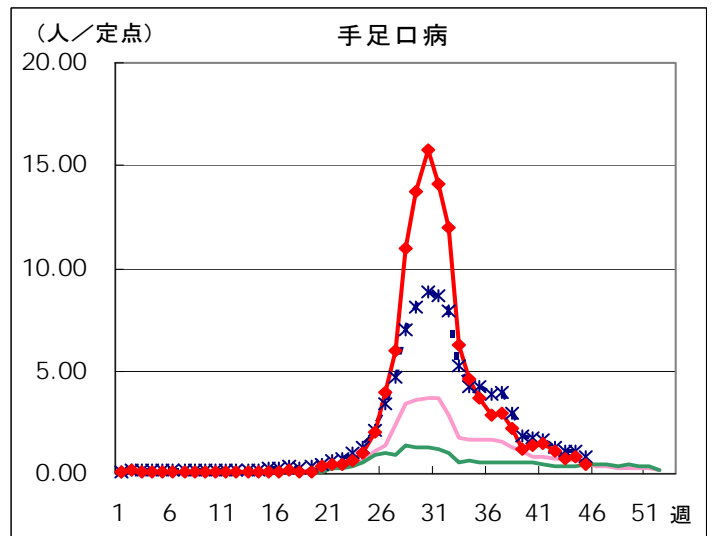
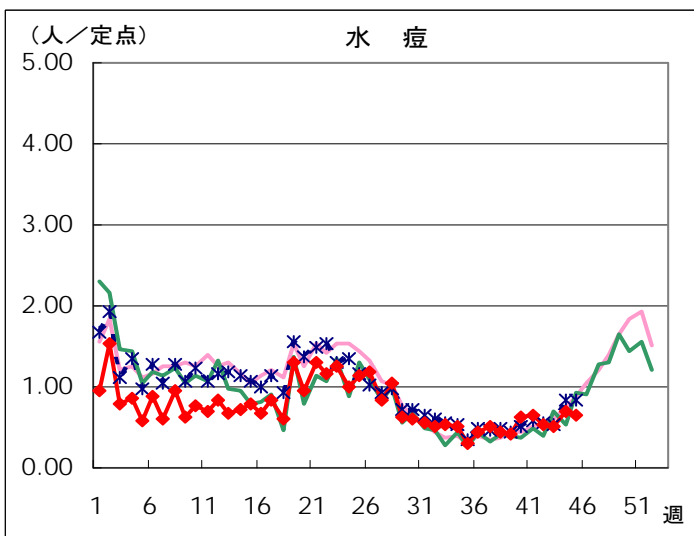
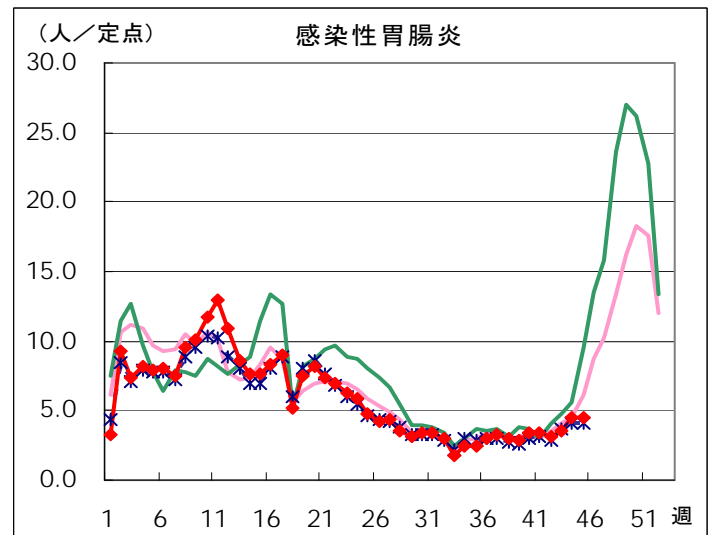
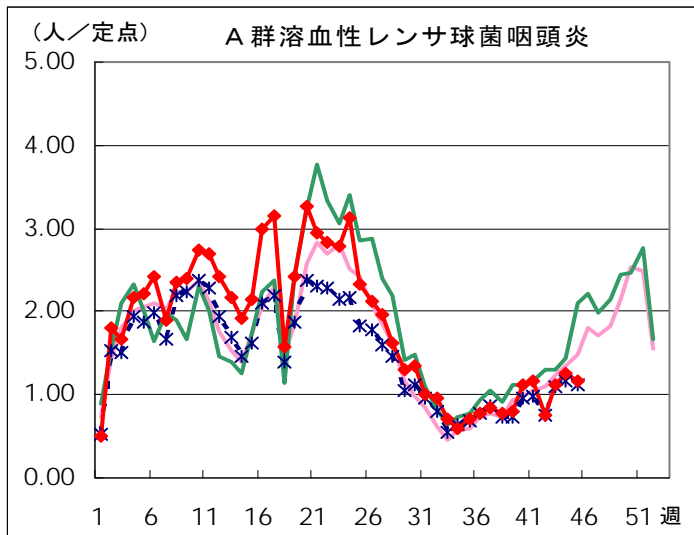
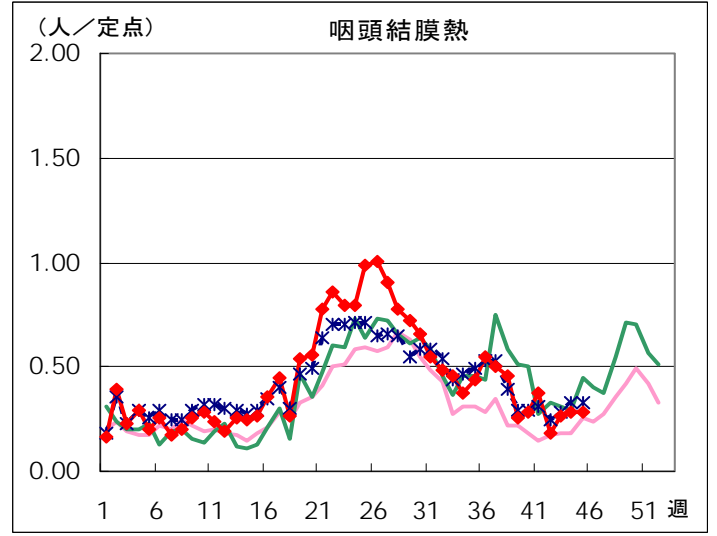
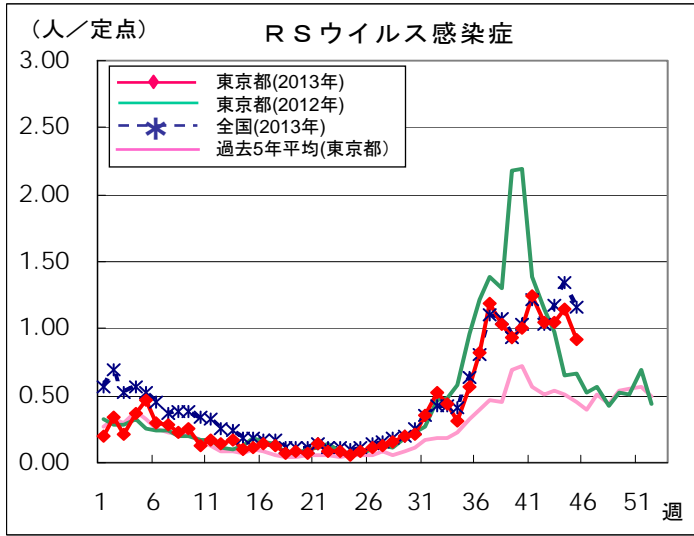
## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2013年45週

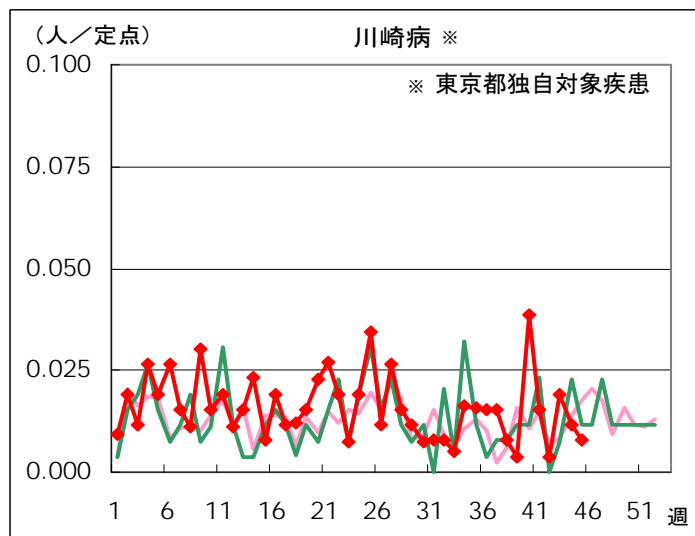
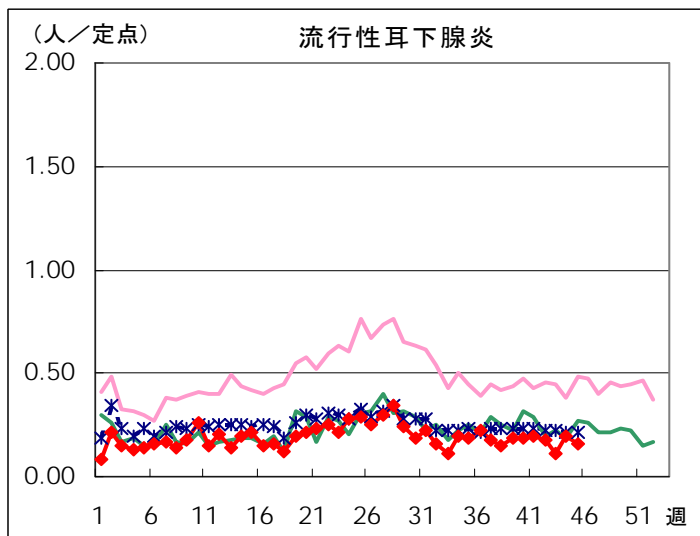
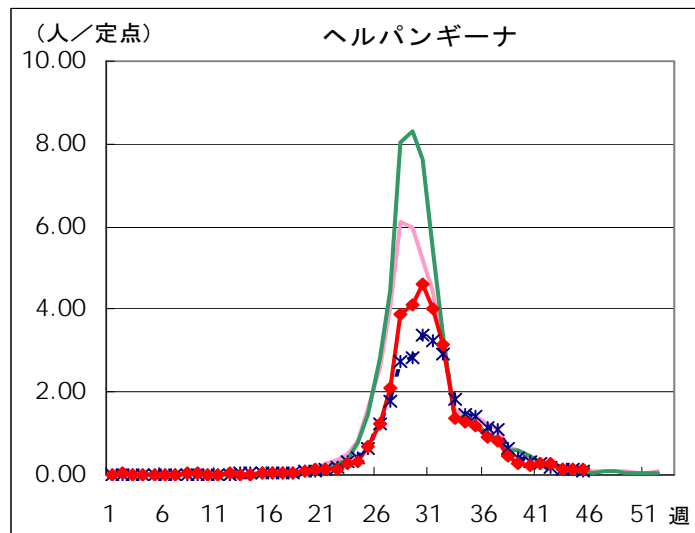
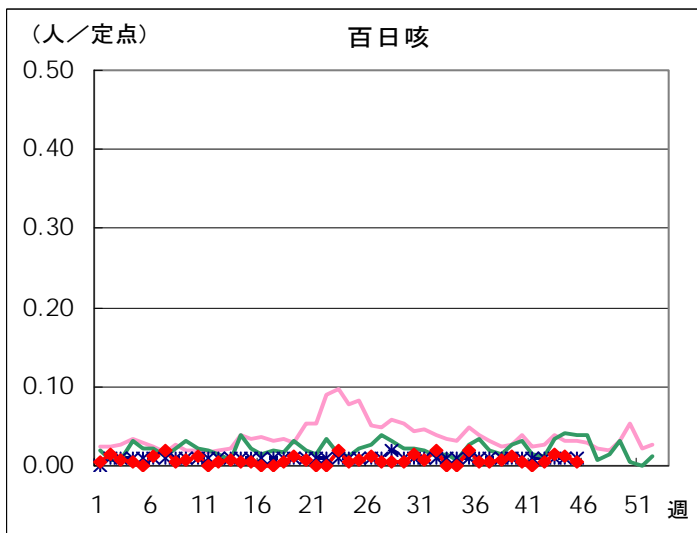
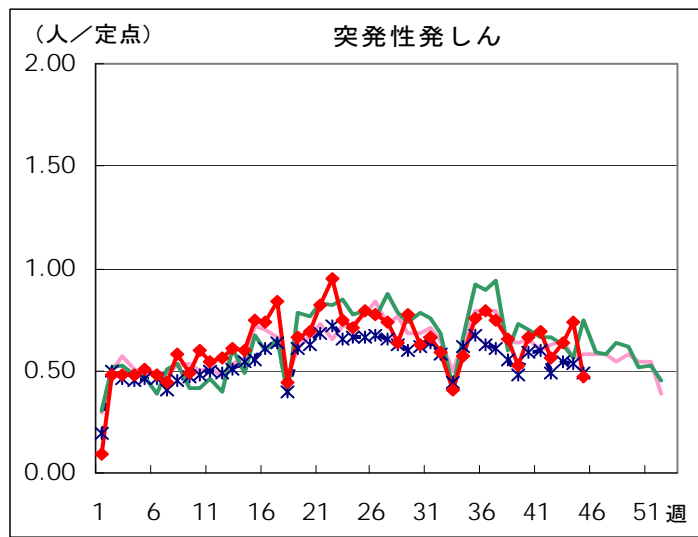
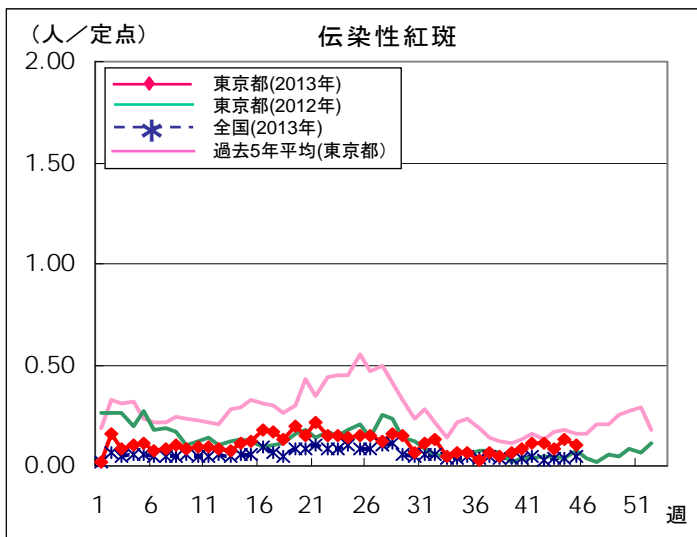
定点種別	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	7			9						2	
中央区			1	4		3		1			1
みなと	10	6	1	29	1	3	1	4		3	1
新宿区	20	1	5	21		1					
文京	1		2	9	2	2		3			
台東	6		3	22	3		1				1
墨田区	9	1	1	2	1	3					
江東区	10	4	17	71	4	3		5			2
品川区	6		4	39	1	3	1	8			
目黒区			1	6		4					
大田区	17	4	14	77	11	11	2	4		2	1
世田谷	16	3	15	53	21	13	11	10		3	2
渋谷区	1		1	12				1			
中野区	3		3	24	6	3					
杉並	2	1	5	45	3	5		4		1	
池袋	2		1	15	2	2				2	
北区	2	1	1	49	3	2		6			
荒川区	12	1	12	29	2	4	3	3			2
板橋区			1	31	4	5		6			
練馬区	7	10	16	38	12	4	1	12		4	1
足立	8	5	22	107	8	7		5		3	2
葛飾区	3	1	4	57	4	1	1	2			1
江戸川	2	13	25	47	7	6	2	6		1	3
八王子市	25	4	30	124	14	6		5	1	3	2
町田市	4	1	16	67	11	4		3		3	4
西多摩	7	1	1	15	4	2		2		3	2
南多摩	10	2	10	46	8	2	1	6			4
多摩立川	8		26	40	6	3	1	6			
多摩府中	11	2	44	47	26	13	1	11			8
多摩小平	27	13	21	34	7	10	1	9		3	3
島しょ											
東京都合計	236	74	303	1,169	171	125	27	122	1	33	40

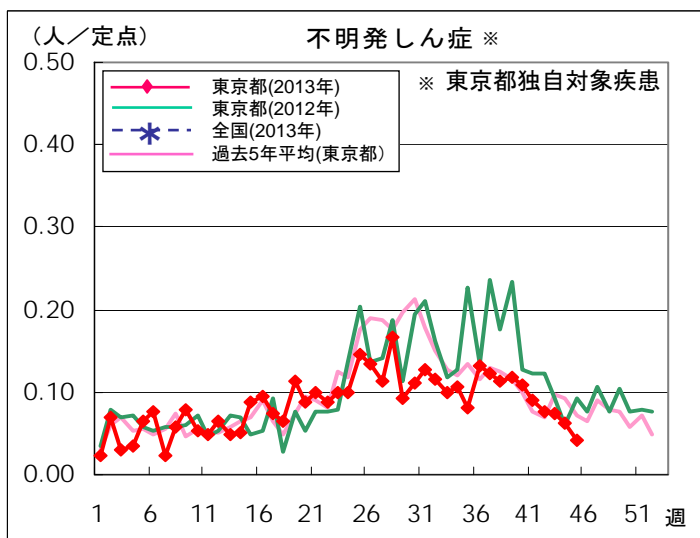
定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田								2			
中央区					2						
みなと											
新宿区	1		2								
文京	1										
台東			1								
墨田区			4				1				
江東区			3								
品川区											
目黒区											
大田区		2			1						
世田谷		3	1			1					
渋谷区					3			1		1	
中野区											
杉並			1								
池袋					2						
北区			2								
荒川区		1	1		1						
板橋区			3								
練馬区					1						
足立			3		2						
葛飾区			2					2			
江戸川			2								
八王子市		1	1		3						
町田市		1									
西多摩											
南多摩		1									
多摩立川			12								
多摩府中			4								
多摩小平		2	11								
島しょ											
東京都合計	2	11	53		15	1	1	5		1	

# 定点把握対象疾患 週別報告数(2013年45週 現在)

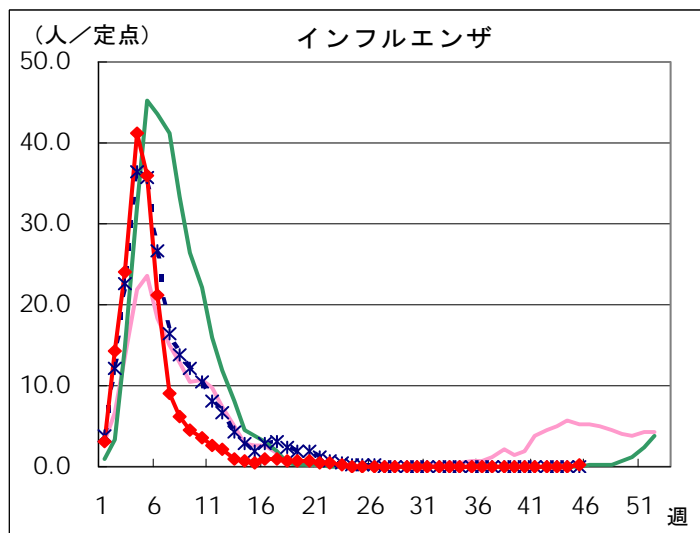
## ◆ 小児科定点



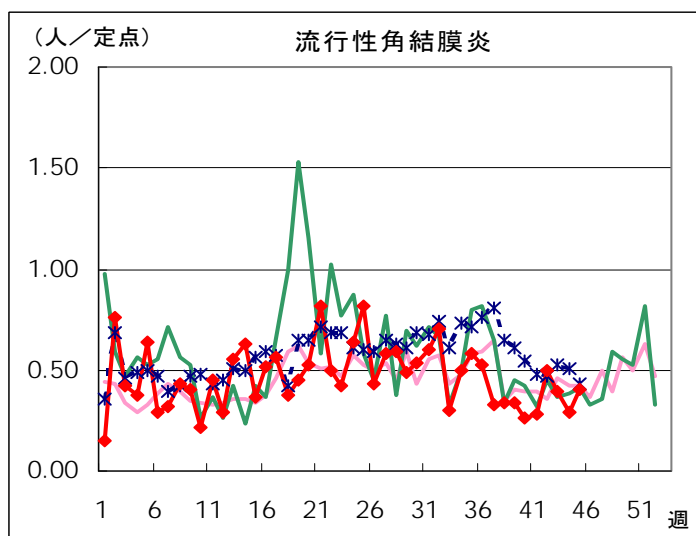
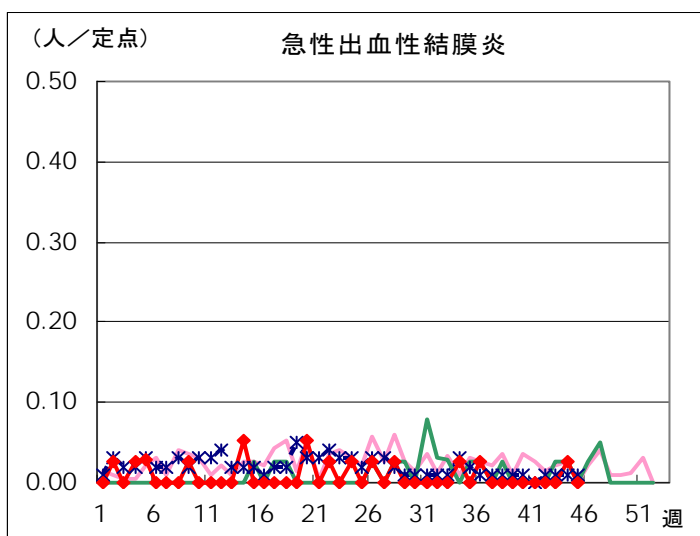




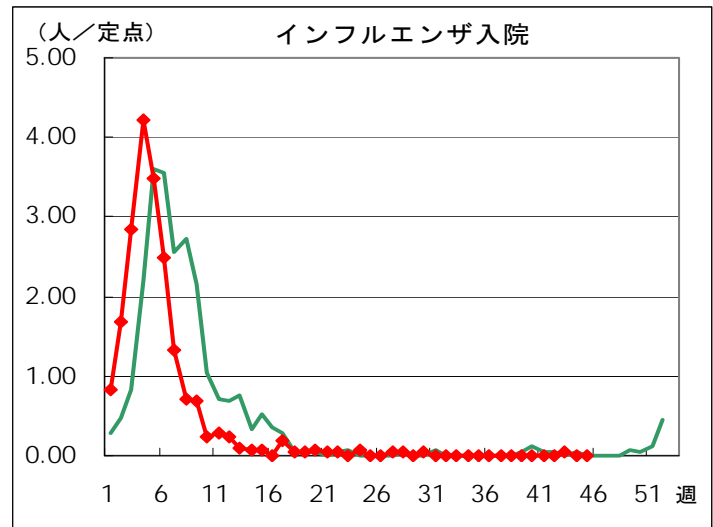
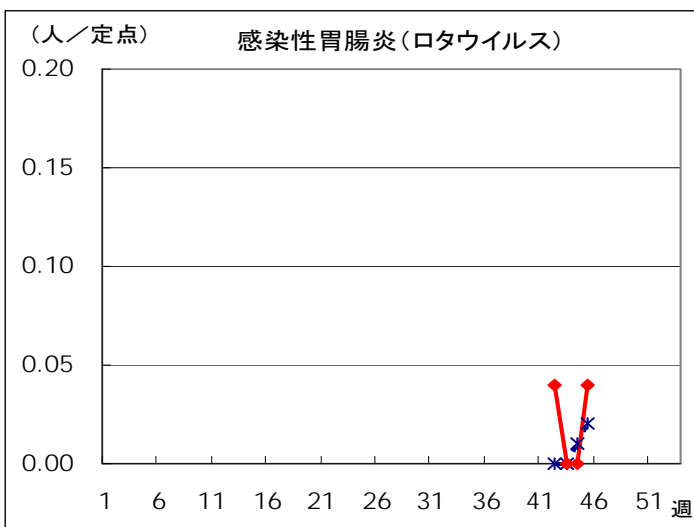
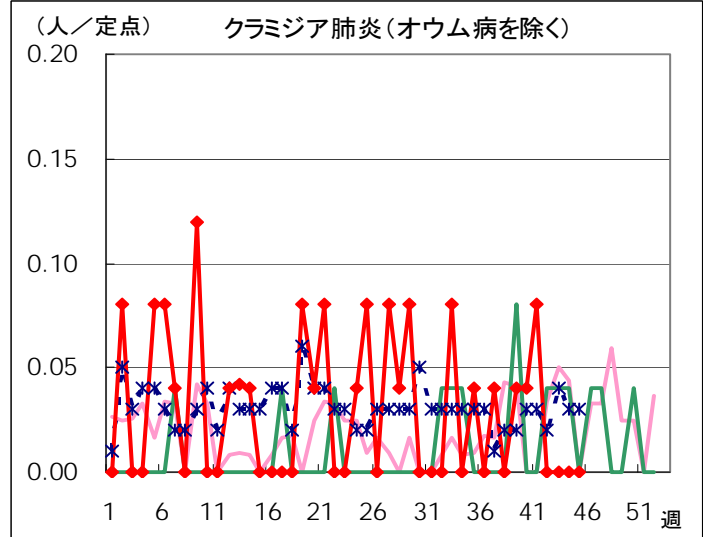
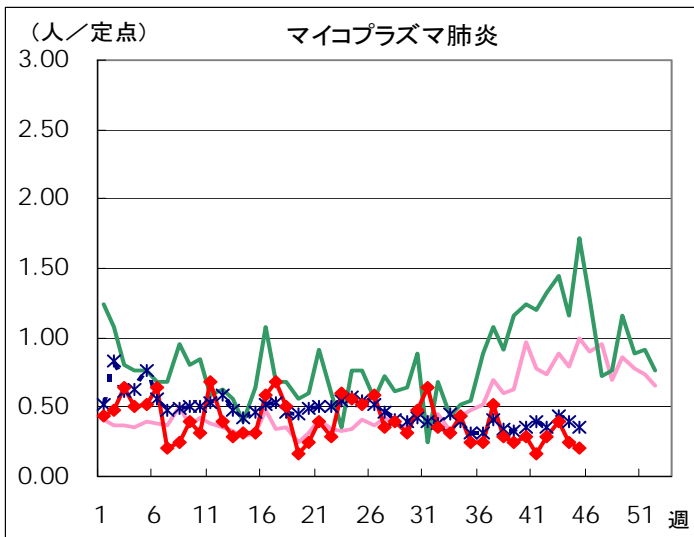
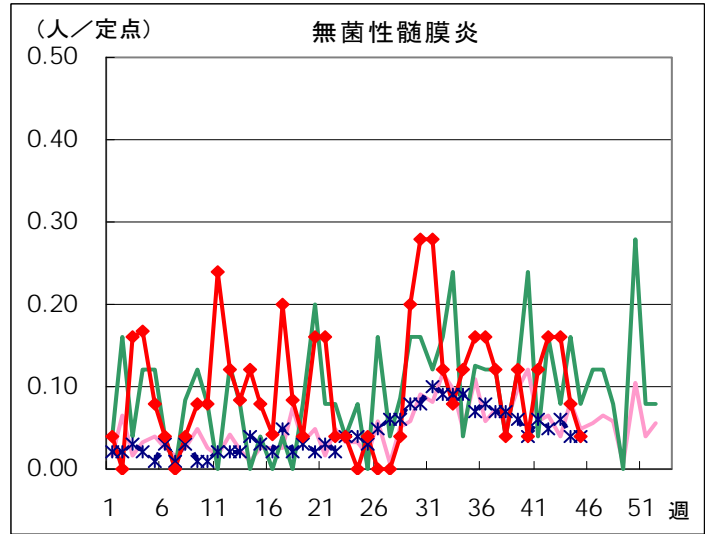
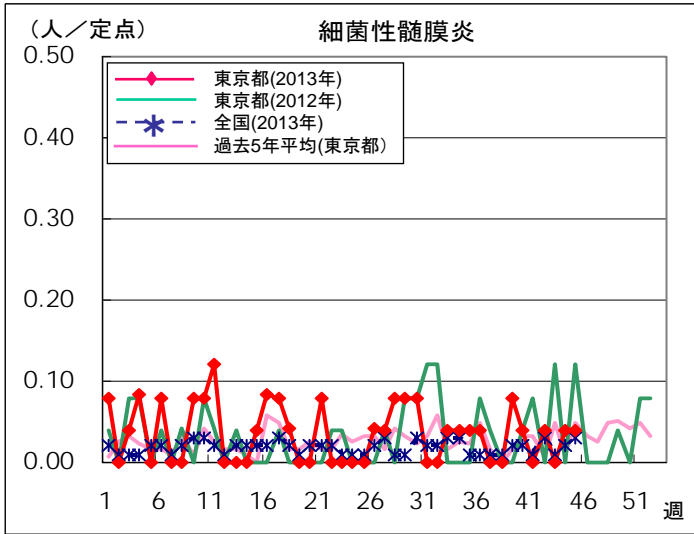
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



## 定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
10/3	無菌性髄膜炎	5D	髄液	コクサッキーウイルス B群5型	遺伝子
10/25	無菌性髄膜炎	12D	血液	エコーウイルス 25型	
10/16	早産低出生体重児	16D	血液	コクサッキーウイルス B群3型	
10/6	敗血症	1M	血液	エコーウイルス 25型	
10/28	RSウイルス感染症	2M	鼻汁	RSウイルス	
10/28	ウイルス性発しん症	4M	咽頭拭い液	エンテロウイルス 68型	
10/29	細気管支炎	5M	咽頭拭い液	エンテロウイルス 68型	
11/1	RSウイルス感染症	6M	鼻汁	RSウイルス ライノウイルス	
10/25	RSウイルス感染症	8M	鼻汁	RSウイルス	
10/16	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス 68型	
10/28	突発性発しん ウイルス性筋炎	1	咽頭拭い液	EBウイルス	
10/23	肺炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス 68型	
11/1	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ライノウイルス 風しんウイルス	
10/23	インフルエンザ様疾患 (発熱、関節痛、上気道炎、頭痛)	28	咽頭拭い液	ライノウイルス	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
44週			1	
2013-2014年 シーズン累計**			1	

\* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

\*\* 2013-2014シーズンの開始は第36週(2013年9月2日～)



病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2013年							
		37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週
ウイルス	アデノウイルス	3		1		1	1	1	
	ライノウイルス	3	2	5	7	9	2	2	3
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群	4	2		7	2	2	1	
	コクサッキーウイルスB群	1					1		2
	エコーウイルス	3	1	3		3			2
	エンテロウイルス71	2	4			3		2	
	その他のエンテロウイルス				1	1	2		4
	単純ヘルペスウイルス				1	2		1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス			1				1	
	ヘルペスウイルス6/7	6	2	2	1	7	1	1	
	EBウイルス		1		2	1		1	1
	サイトメガロウイルス			1			1		
	ムンプスウイルス				1				
	麻疹ウイルス								
	風しんウイルス		2		1			1	1
	パルボウイルスB19	1						1	
	RSウイルス	2	1	3	4	4	2	3	3
	ノロウイルス							1	
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								1
	インフルエンザウイルスB								
インフルエンザウイルスAH1pdm09									
デングウイルス(抗体を含む)			1						
その他のウイルス			2	1		1			
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2013年37週～2013年44週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		1	27	53	17	38	5		1	6	16	2	26	11	3		1	59	
ウ イ ル ス	アデノウイルス		1	1			4		1										
	ライノウイルス		3	13	1		1			1			5	2	1		1	5	
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群		4		1					3	8		1					1	
	コクサッキーウイルスB群			2		1												1	
	エコーウイルス		1			2					1		5					3	
	エンテロウイルス71		1	1					2	5								2	
	その他のエンテロウイルス		1	3	1								2					1	
	単純ヘルペスウイルス		1			1				2									
	水痘・帯状疱疹しんウイルス														2				
	ヘルペスウイルス6/7		1			1					5		6					7	
	EBウイルス									1				2				3	
	サイトメガロウイルス												1					1	
	ムンプスウイルス					1													
	麻疹ウイルス																		
	風しんウイルス										2		3						
	パルボウイルスB19												2						
	RSウイルス		3	19															
	ノロウイルス																		1
	ロタウイルス																		
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	1																		
インフルエンザウイルスB																			
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス(抗体を含む)																		1	
その他のウイルス		1	2	1															
細 菌	カンピロバクター																		
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

## <感染症豆知識>

### 新型コロナウイルス

中東を中心に急性の重症な呼吸器症状を呈した患者から 2012 年 9 月に初めて報告された新しい種類のコロナウイルスです。2013 年 5 月に国際ウイルス分類委員会が「Middle East Respiratory Syndrome Coronavirus (MERS-CoV)」と命名しました。またこの新型コロナウイルスの感染によって発症する感染症を厚生労働省は「中東呼吸器症候群 (MERS)」と決定しました。

ヨルダン、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦など中東の国々で患者が報告されている一方、フランス、ドイツ、英国などヨーロッパの国々でも患者の報告があります。ただしヨーロッパで報告された患者は中東への渡航歴があるか、渡航歴はないが中東に渡航したことのある患者と密接に接した機会がありました。WHO を中心に関係国と共に感染経路等の疫学調査を行っていますが、まだ明確なことは解かっていません。ただ、複数の患者の集団（医療機関内や近親者）でヒトーヒト感染が強く疑われたり、立証されています。

MERS の症状は発熱、せき・息切れ等の呼吸器症状を呈し、ほとんどの患者は肺炎を起こし、これまで患者の約半数が死亡しています。また多くの患者は下痢などの消化器症状も伴い、腎不全を起こした患者もいます。現在ワクチン等の特異的な治療法は開発されていません。

厚生労働省では「38 度以上の発熱と咳を伴う急性呼吸器症状を呈し、臨床的又は放射線学的に実質性肺病変（例：肺炎又は ARDS）が疑われる者であり、発症前 10 日以内にアラビア半島又はその周辺諸国に渡航または居住していた者。但し、他の感染症によること、または他の病因が明らかな場合は除く。」を診察した場合には保健所への情報提供を呼びかけています。

（文責 東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室主任教授 遠藤弘良）